

第8期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第8期宇治市生涯学習審議会 第9回審議会						
日 時	平成30年10月19日(金) 午後2時～4時						
場 所	市役所庁舎 6階 602会議室						
出席者	委 員	×	井上 浩	×	佐藤 翔	○	藤林 弘
		○	内田 徹	○	佐藤 るり子	○	向山 ひろ子
		○	奥西 隆三	○	杉本 厚夫	×	森川 知史
		○	木村 孝	○	長積 仁	○	六嶋 由美子
		○	切明 友子	○	西山 正一		
		○	小宮山 恭子	○	林 みその		
	事 務 局	○	伊賀 和彦(教育部長)				
		○	藤原 千鶴(教育部参事(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)				
		○	市橋 公也(教育支援センター長)				
		○	福山 誠一(教育支援課長(兼)青少年指導センター所長)				
		○	宮本 義典(生涯学習課副課長(兼)生涯学習センター主幹)				
		○	植村 和文(生涯学習課生涯スポーツ係長)				
		×	高橋 紀子(生涯学習課事業係長(兼)生涯学習センター主査)				
		○	上田 敦男(生涯学習課生涯学習係長)				
		○	森川 円(生涯学習課生涯学習係主任)				
	×	太田 悠(生涯学習課生涯学習係主任)					
傍聴者	1名						

会議要旨は、下記のとおりである。

• 第8回審議会の会議録について

訂正がないことを確認し、ホームページで公開する。→委員了承

1. 報告事項

➢ 平成30年度近畿地区社会教育研究大会(和歌山大会)について  
(事務局)

平成30年9月7日(金)に、和歌山県和歌山県民文化会館にて開催され、4名の委員が参加。全体会では、「高野山開創1200年～その歴史と文化～」という演題で、高野山大学名誉教授 山陰 加春夫氏による講演があり、午後は分科会に分かれての事例発表があった。来年度は兵庫県で、全国大会と兼ねて開催される予定である。

(委員)

全体会では、高野山の歴史や宗教的な話を聞かせていただいた。分科会「環境教育」では、琵琶湖河川をフィールドとした環境保全活動をされているNPO 法人家棟川流域観光船

代表者松沢氏の話聞いた。松沢氏によると、琵琶湖は昔遠くまで見えるくらい透明な美しい湖だったが、国の施策で曲がっていた川を直線的に山から引き直したために、ごみや農業排水が琵琶湖に流れ込むようになって非常に汚くなったということであった。再度、美しい湖を復活させようと、子どもを巻き込んだ環境学習や葦の植え直し等様々な施策を実施されている。活動するにあたって、ボランティアの不足が大きな問題となっているようである。また、小さい頃から環境学習の体験を通して環境問題の重要性を理解することが大切だが、親世代の理解を得ることが難しく、子どもの体験につなげられないと話されていた。このような状況の中、地道な活動を続けることと琵琶湖について語り継いでいくことが必要であると認識させられた。

(委員)

分科会「人権教育」では、笠置町同和教育推進協議会の発表で「継続は力なり」というテーマであった。協議会メンバーとして地域の団体はほぼ網羅され、副会長は議員がされており町をあげての推進協議会となっている。町民は1,300人程度であるが、毎回行事には150人(全体の1割)程度の方が参加されている。会長曰く、同和問題は作られた差別であるため、「人権教育」ではなく「同和教育」という名前ですっと活動を続けているとのことであった。現在は、貧困問題や劣悪な環境等解消されつつあるが、漠然と残っている差別意識があり、これからどのようにして無くしていくかが課題であると考えさせられた。

(委員)

分科会「学校・家庭・地域の協働」では、奈良県天理市の校長が話をされた。当初は、人・物・金で悩んだけれど、地域の熱い思いに支えられ地域と学校で作り上げる3つのプロジェクトを開始された。図書館の開放プロジェクト(学校の図書室を開放)、町の力を上げるための学習プロジェクト、夢応援プロジェクト(後方支援組織)である。継続性のある活動にするためには、今後の担い手の育成が必要であり、その点について悩みを抱えておられる状況であった。

### ➤ 第36回市民スポーツまつりについて

(事務局)

平成30年10月8日(月)に太陽が丘において、宇治市、宇治市教育委員会、(公財)京都府公園公社の主催で開催した。各体育レクリエーション団体をはじめ、プロスポーツ団体、食育団体や健康づくり団体など多くの団体に協力をいただいた。当日は、様々なコーナーで参加者には楽しんでいただけた。昨年度は体育館の改修工事があったが、今年度は工事も終わっており、参加者のべ人数は昨年度12,000人から今年度16,000人となった。

## 2. 審議事項

### ➤ 公民館の今後のあり方について

(事務局)

資料「公民館の今後のあり方について（案）」に基づき、変更点や追記した点を説明。

「Ⅱ. 現状・課題」は概ね前回通りであるが、委員から意見があった点の修正や具体的な数字として示せるものについて追記した。また、宇治市の公民館の課題について、項目の整理と課題のまとめ、今後のあり方につながるような文章を追記した。

「Ⅲ. 公民館の今後のあり方について」の部分は、公民館の役割として前回示した4点についてさらに掘り下げた内容を列記し、委員長とも相談して今後の展望をまとめとして記載した。

（委員長）

答申後、施策が展開されていくための基軸を、まとめに4つの視点として書いている。我々が示すべきこととして、公民館について考えたことをきっかけに、市の施設（資源）をどのように活かして豊かな生涯学習につなげていくのか、また、その先のまちづくりを考えるため、社会教育の立場から進めたいことをまとめに書いている。これは次の展開の拠り所となる。

ここに記載されたものに欠けている視点等について意見をいただきたい。

（委員）

現在閉館している宇治公民館は、地理的に市の中心にあり、内容（音楽教室や料理教室等）も充実していたと改めて感じている。答申を出すにあたり、宇治公民館についてどのように記載するのか。市の財産を減らすことは大変惜しいと感じている。

（委員長）

宇治公民館の存在は非常に大きく、現在閉館中のものをどうするのかは考えていかなければならないとは思っている。しかし、我々にできること、考えるべきこととして、施設数の減少に対し増設の要求も諦めるつもりはないが、無くなった分の機能補完をできるようにしていくという視点で答申（案）に書いている。今まで展開されてきたことをどのように補完するのか、新たな施設を作ることにこだわるのではなく、他資源の有効活用や仕組みの再構築により補完・充実を図っていく提案をすることこそが、当審議会の意義だと感じている。

（事務局）

委員長の説明内容について、まとめの3つ目の視点「これまでの公民館の枠組みにとらわれず、他の公共施設等と柔軟に連携することで生涯学習を推進する」という部分に記載している。市の大きな計画の中で資源を有効活用しながら生涯学習を推進していきたいということを記載している。

（委員）

施設があつてこそできる活動がある。特に、音楽（合唱）練習等はどこでもできるものではなく、練習場所が得られず活動に支障が出ていることを、利用者の声を聞いて知った。

幅広い活動を支えるためにも、施設整備は必要と思っている。

（委員長）

そのように活動場所に困っておられる方々がどうすれば活動を続けられるか、代替案の提案を他の施設との有機的な連携でカバーしていけないか考えていきたい。

（委員）

距離的な問題で5館体制の維持は必要ではないか。社会教育、市民コミュニティの場をどのように確保するかを考えるにあたり、公民館の複合化等でうまく対応できないか。将来的に民間の力の活用も考えるべきであり、利用料は今の有料無料の区分を整理して、社会教育活動や社会還元する団体の活動の場は広く皆が公平に使えるよう無料または減額を維持してほしい。民間の力の導入では、福祉団体を活用してはどうか。例えば、障害者団体による喫茶店の営業等を導入することで、社会還元へとつながっていく。

宇治公民館を同じ位置で建替もしくは新築するなら、複合ビルにして地下方式の駐車場を設けてはどうか。

（委員長）

施設がなくなることに対するダメージがあるという意見も確かにある。行政の区分にとられることなく柔軟な連携をすることについても示している。

（委員）

答申後の動きを考えて、「地域で作る公民館」を表に出していきたい。これこそが公民館の活性化につながるのではないだろうか。

（委員長）

その考え方に近いことが最後の視点に書いてあるが、「公民館を育てていく」という言葉が入った方が良いか？

（委員）

市民の方が見て今後の意気込みが分かるような表現を入れてほしい。

（事務局）

最後の視点は、「市民の生涯学習を市民と市の協働で守る」としているが、ここに何らかの表現をいれてふくらませてはどうか。

（委員長）

公民館を育てるとは、学びの場を豊かにする、そこに集う人々の生涯学習を豊かにするということであることを表現していきたい。

(委員)

この答申(案)は、活動している人たちや、今から何かしようとしている人たちに向けてのものになっていると感じた。大部分の人は無関心であり、目の前に情報発信されても見えていない。そのような人を振り向かせるような文言を入れられないか。

例として、「子育てを楽しむ会」は、あまり外と関わりがなかった子育て世代にネットワークをつなぎ横のつながりを作り、社会参加に積極的ではない30~40代の方を巻き込んでいった。このように、くすぐり(仕掛け)を工夫することで無関心であった方々も巻き込むことは可能である。

(委員長)

ニーズの掘り起こしや導きを工夫することで、ニーズを持っていない人たちもうまく巻き込んでいくことについても文章として表現していきたい。生涯学習の機会や参画のチャンスを逸失している人たちについて言及することも必要かもしれない。

(委員)

ここ最近、宇治公民館がないと困るという声をよく聞くようになった。皆自分達の活動発表の場に困っているようである。

現状、そのような困りごとを抱えている人がこの答申を見た時、「きれいにまとめようとしている」と思われぬか。実際に困っている、公民館について関心を持っている人たちに響きにくい文章となっているのではないか。

(委員長)

まとめの部分には行政の垣根を越えたチャレンジについて積極的に書いているつもりであるが、宇治公民館のことや現実の市民の困りごとを避けている表現となっているかもしれない。市民の声を盛り込んでいけるよう検討したい。

(委員)

全ての市民の生涯学習を推進しようと思うと、人口19万人弱に対して現在の公民館数は少ないと思う。すべての公共施設を巻き込まないと、場が足りない。関心のない人も巻き込むには、「気軽に」行ける場となることが必要だが、現状難しい。コーディネーターとの関係作りや仕組みができるまでには遠いと感じている。

(委員長)

現状、団体での活用や教室への参加という形で集うことが多い。皆が集いたいと思える仕掛けが必要である。公共空間として利用されることが、まちの防災対策にもつながるだろう。

(委員)

豊かな生涯学習につなげるためには、きっかけが必要である。今の公民館に全ての人に

## 第8期宇治市生涯学習審議会 会議録

としての「気軽さ」はないため、そう感じてもらえるような仕掛けを作ることが大事。ニーズは様々であり、必ずしも一つの仕掛けでは果たせない。多様な取組みが必要である。宇治公民館が閉館されたことで、3階にあったような広いスペースを他施設で確保することが困難になってしまったことが問題である。

(委員)

伏見区役所には、150名程度入れるホールがある。宇治市文化センター小ホールや生涯学習センターのホールほど収容人数が多くなく、会議室ほど少なくない、その程度の広さは使い勝手が良く人が集しやすい。市役所のロビー等、既存の施設のスペースを利用してそのように活用できないか。

(委員)

文章の中にカタカナがない方が読みやすい。コーディネーターとフロンティアメーカーは日本語表記にカッコ付きだが、セルフプロデュースもカッコ内に入れて他の日本語に置き換えられないか。

(委員)

この答申が一般の人の目に触れた時に、P7最後の行には「生涯学習の場」と記載しており、P9最後の行は「生涯学習施設」と記載してある。「施設」という言葉では、新しい施設を作られると捉えられてしまうのではないか。誤解を与えかねないので、「場」で揃えるなど表現を変えた方が良い。

(委員長)

施設に言及する意味ではないので、変更したい。

(委員)

市は公共施設20%削減を掲げている中、新しい施設の増設を期待してよいのか。

(委員)

集まる場がなければいけない部分もある。使ってきた人、そこで活動してきた人が困っていることは考慮しないといけないだろう。また、市の主催行事の場が減ることも市民サービスの低下につながっていく。何かしらの策は考えていかないといけないだろう。

(委員)

会議に参加するために行った施設で、外国の方がボランティアと一緒に日本語を学ぶ教室にたくさん人が集まっているのを見かけた。ボランティアの方に話を聞くと、当日になってたくさん来られても、「誰でも参加してください」というオープンな受入体制にしているとのことであった。その教室のように敷居が低いと、参加者が知り合いを気軽に誘って連れてくる等、人も集まりやすい。

(委員長)

色んな人を巻き込むためには、敷居を低くすることも必要である。もともと高いものではないはずであり、足の遠い人を近づきやすくすることは重要である。

(委員)

公民館までの距離があり、遠い人は利用につながりにくい。大きなところに集うことも大事だが、気軽にいける地域の場所があれば良い。集会所の距離感が最適と思われるため、集会所の存在を見直すことをしてもよいのではないか。他にも、空き家の活用をして自由に集っておられる方々もいる。身近に小さな施設がたくさんあれば良い。

加えて、広い場所が必要な方々のためにも、市役所のロビーを時間外に開放する等の施策も検討してほしい。

(委員長)

生活圏域で足を運びやすいところに活動場所はあるべきであり、公民館でなくてもできる活動は、集会所や学校等今ある施設を上手く利用して補完していくという発想は非常に重要である。

(委員)

中央公民館で開催された会議に参加した際、図書館の前にリサイクル本が並んでいて、自由に持ち帰れた。このような情報発信は図書館がしていると思うが、皆はどのようにしてその情報をつかんでいるのか。興味のある人は自ら情報を探しに行くだろうが、興味のない層に対する上手い発信方法があれば良い。

(委員長)

ひとつの目的を明確に持たなくても、何かのきっかけで施設に行くことで、予定していなかったことから「こんなことやあんなこともできる」と知ってもらえるような仕掛けをしていくことも重要である。

(委員)

先に発言のあった図書館の取組みは、リサイクル市をした後に、残った本をそのように並べて欲しい本をお持ち帰りいただいているようだ。リサイクル市の開催は市政だよりやFacebook等で情報発信しているが、なかなか行き渡らない。この答申(案)にも「市民と市の協働」と記載されており、あらゆる取組みで掲げられているが、実際には市民(利用者)の声を出す場がないと感じている。普段から市の担当者と利用者で話せる雰囲気作りや、懇談会のような場を設けるなど、市民と市の協働を実現できる中身が示されるよう、もう一工夫必要である。

(委員長)

答申後、市民との協働が具体的に施策に反映されているのかどうか、今後、当審議会が確認していく必要があるだろう。

(委員)

どこまで具体性を持って提案するかの線引きが難しい。有料化といっても指定管理制度や利用料金制度まで踏み込んで記載するのか、判断は委員長に任せたい。

本答申(案)は、公民館ありきの機能改革について言及している。公民館があるかないか、必要があるかないかの構造改革には触れていない。公民館は、公益性の観点からどういう意味を持っているのか、市全体としての必要性はどうかを考えていかなければならない。

加えて、この答申の目玉(宇治市独自の公民館のあり方)を前面に出せれば、市民にも伝わりやすいので考えてほしい。

また、「複合化」という言葉が使われているが、「複合化」は各施設が独立して連携することであり、「総合化」はそれぞれの特徴を活かして新しいものを作っていくことである。お互いの良さを活かし合って公民館の使い方が変わっていくということも含まれるので、市民にとっての施設の「総合化」を目指す面白いのではないか。

最後に、「協働で守る」と表現されているが、「協働で作る」の方が積極的である。行政に依存し続けるのではなく、財政難であれば皆で寄付やクラウドファンディングで対応しようという運動まで展開して行けば、より皆が作った公民館というロイヤリティが高まってくる。

(委員長)

複合化はもともと上位計画に記載されている文言であるため、それらの文書との整合性を図りながら検討していきたい。

具体性の部分が物足りないという意見に対しては、多様な可能性を残す形での書き方を考えたい。

市としての独自性は確かでない。行政として取り組んでいかないといけない共通課題を先取りして提案している、言われているけれどできていない部分を表したものとなっている。もう一步踏み込んで、書き加えたい。

(委員)

「市民と協働で作る」という観点は財政も含めたものとなれば、宇治市独自と言えるのではないか。

(委員長)

市民と守るのではなく、協働で何かを作る、市民社会に市民がもう一步踏み込むために資源やエネルギーを投じるという考え方が市独自のものとして答申に反映できるかもしれない。

(委員長)

本日、色んな意見をお聞かせいただいた。それらを踏まえて、次回再提案をさせていただきたい。

### 3. その他

#### ➤ 第37回宇治市「中学生の主張」大会について

(事務局)

第37回宇治市「中学生の主張」大会を11月10日(土)13時30分から開催予定。青少年健全育成協議会、連合育友会と共催で実施する。中学生の家族や夢等について発表する機会であり、お越しいただきますようお願いいたします。

#### ➤ 宇治まなびんぐ2019への出展について

(委員長)

まなびんぐの申込みが今月中となっている。我々自身の発信の場、何をしているのか知ってもらえる良い機会であるため、出展する方向で進めたい。

#### ➤ 山城地方社会教育委員連絡協議会について

(事務局)

山城地方社会教育委員連絡協議会の1月にある研修会のサブタイトルを考えていただきたい。メールで依頼を送付するので、ご提案をお願いします。

#### • 最後に

(委員長職務代理)

当初、先の見えなかった公民館のあり方について、皆さんの意見をいただく中で、少しずつ定まってきたのではないかと思います。これからもよろしくお願いいたします。

#### <次回の会議について>

平成30年11月13日(火)午後3時00分から 生涯学習センター 一般研修室